

2012.5.26 第5回院生ミーティング議事録

日時：2012年5月26日（土）13:00～15:00

場所：大学生協杉並会館 地下会議室

参加者

科履生：1名、D1：1名、M2：26名、M1：37名、事務局：1名

【議事録】

【報告事項】

1、自己紹介

大学名と学年、名前と一言を全員の前で軽く挨拶を行った。

※様々な大学院から多くのM1の方が今回のミーティングに参加をしてくれた。

2、新院生交流会「浅草めぐり2012」報告

実施日：2012年4月28日（土）、5月13日（日）

参加者：116人（2日間の合計）

参加大学：東大、東工大、早稲田、慶応をはじめとした様々な大学から参加があった。

内容：浜松町に集合後、水上バスで浅草へ。自己紹介後、昼食・自由行動を行い集合写真撮影。自由散策の後は、夜から懇親会の流れだった。

浅草めぐり実施のアンケートより：ポスターや Style Book が広報手段として有効であった。

院生ミーティングに興味を持ってくれた人たちが多かった。

今後の活動の参考として参加者が興味を持っていること（アンケートより）

- ・院生同士の交流会
- ・バーベキュー
- ・飲み会
- ・就活相談会 などに参加者は興味を持っていた。「就職」「交流」がキーワード。

今回の浅草めぐりを終えて：2日間とも天候に恵まれ、参加者のみなさんがとても楽しそうに交流を行っていた。院生ミーティング事体にも興味を持ってくれた参加者も多くいて今年も去年以上に充実した活動ができるのではないかと感じた。

3、院生ミーティングとは何か？

1) 院生ミーティングと大学生協について

◆院生ミーティングはどのような活動をしているのか？◆

⇒院生ミーティングは大学院生の生活を楽しく充実したものに をコンセプトに活動を行っている。

{活動内容}

1. ミーティング

時間：休日の午後（14時または15時から）3時間程度

場所：大学生協 杉並会館または 旧大学生協渋谷会館

2. 各大学院新歓企画

2012年度は東工大や一橋大学・早稲田・埼大などで実施。

3. 春の交流会「浅草めぐり 2012」

4月28日（土）、5月13日（日）の2日間。

新院生の交流を目的に浅草を散策した。

4. 夏の院生交流会（2011年度）

7月に東京大学駒場キャンパスにて、

「仕分けされない研究発表～2位じゃダメなんです～」を開催。

ポスター形式で文理を問わず研究発表を行い、聞き手（仕分け人）が評価を行った。

5. 秋の院生交流会（2011年度）

「研究ばかりの君たちへ～院生パラダイス～」を11月に開催。

研究・就活の息抜きすることを目的に様々な大学院生がお台場を散策し、交流を行った。

6. セクション活動（2011年度）

多ジャンルの部門企画。2011年度より活動を開始。

院生同士の交流を活発にし、多くの院生が企画を担当して活動を行っている。

7. 院生 Style Book（新院生向け冊子）作成（2011年度）

東京ブロックの新院生向けに毎年作成および配布している冊子。

2012年度のテーマ：大学院を身近に感じてもらいたい！

新院生の悩みや不安を解消することが目的。

◆大学生協って？◆

⇒学部生・院生・教職員・留学生が組合委員となり、出資金を出し合って大学生活の向上を目的に運営を行っている組織。

「大学生協 院生ミーティング」は大学生協に属し、**院生ミーティングの活動は大学生協の事業の一環。**

⇒組合員（大学院生）のニーズや願いを反映した院生ミーティングの活動そのものが、事業にあてはまる。

◆企画はどのように行うの？◆

- ⇒1. 定例ミーティングで企画内容の話し合い。
2. 企画担当者決定（M1がメインでM2はサポート）
3. 企画の大枠を作成（企画担当者とM2のサポートで内容を作る）
4. ミーティング時に議論（企画担当者が作成した内容を基に議論を行う）
5. 企画実行。
6. 定例ミーティングで反省。

◆今年度の活動予定はどのようなかんじなのか？◆

⇒現段階での年間スケジュール（2012年度）予定

- 6月：セクションスタート
7月：定例ミーティング
8月：夏の交流会
9月：夏合宿
10月：定例ミーティング
11月：秋の交流会
12月：新院生向け冊子入稿
1月：大反省会と役職交代
2月：冬合宿
3月：追いコン

2) 質疑応答

Q：他のブロックとの交流はあるのか？

A：全国院生委員会や10月に行われる全国院生セミナーに参加すれば交流を行うことができる。

4、セクション制について

1) セクションとは何か？

院生同士の交流を活発にし、多くの院生が企画を担当して活動を行う部門企画。
今年度も多くのセクションが活動を行っていく。

2) 現在のセクション紹介

「英語」

「即興術」

「フードスタイル」

「星」

「動物」

「アウトドア」

「スポーツ」

「シンキング・オブ・ワーキング」

これらのセクションが **6月**から活動を開始。

5、グループワーク「どんな企画・セクションをやりたいですか？」

全体を 10 個の班に分けてグループワークを行った。

各班から様々な意見や提案があった。

※詳細は概要の欄を参照。

6、まとめ・お知らせ・今後の予定

1) 6月定例ミーティング

日時：6月16日（土）16:00～18:00

場所：大学生協 杉並会館 地下会議室

2) 夏の院生交流会

予定日：8月4日（土）または5日（日）

※内容や会場状況により日時は決定する。

次回の定例ミーティングで新 M1 から幹事を決定いたします。

3) 2012 浅草メーリス加入について

院生ミーティング・大学生協からの情報をお知らせするとともに、院生同士が情報交換できる場になっているので、まだ登録していない方はぜひ登録してください。

（登録の場合は事務局の方を通して行います。）

概要

グループワーク「どんな企画・セクションをやりたいですか？」各班の発表を記載。

【一斑】

- ・お酒セクション（ビール工場・酒蔵）
- ・食べ歩き（浅草・鎌倉）
- ・交流会・観光

（行きたい観光地などのプレゼンをし合い、良かったところや・いきたいところに行くセクション。）

【二班】

勉強するタイプ：地震学、地学、ゲームプログラミング、研究発表会、工場見学
どこかへ行こうツアー：ボランティアなど。

【三班】

- ・観光
- ・星のセクション（金環日食とかも観察するなど。）
- ・英語とスポーツの合同企画＝国際交流、留学生の方々と生協の場を借りてスポーツをする（年に一回のビックイベント）

【四班】

問題点をあぶりだした！

①理系と文系の壁がある

→ワールドフェス（世界との交流も視野）、国内旅行、フットサルで国際的にもつなげたい

②同期とコミュニケーションがとれていない（個人的にも）

→自分から率先して飲み会とかしたい

【五班】

- ・既存セクションは、英語があるのに他の外国語がない→フランス語はどうだろうか？
- ・お城をめぐる
- ・大勢の前で発表することになれる→学会の発表、就職の面接にもなれるのではないか
- ・研究の軽い紹介→トリビア的な、無駄知識的な、簡単な紹介の機会を設ける

【六班】

- ・それぞれの趣味を生かそう！→サイクリング、まつりめぐり、美術館めぐり、テーマパーク
- ・就職にすむにあたって→失敗から学ぶということを身に付けよう！

例) 逃げ出したペンギン捕獲という実際にあった事件をふまえて・・・

⇒動物園から動物を解放→みんなでつかまえていこう！

【七班】

- ・音楽セクション（おすすめのCDを用意して、熱く語る）
- ・映画セクション（DVD観賞、みんなにすすめる）
- ・食べ歩き（カロリー気にせず）
- ・花火を見に行く
- ・学園祭をみにいく
- ・マネキンファイブ！！

【八班】

女子会を企画しよう（男性が女子会を企画→女子が選ぶ→実行・企画）

<ポイント>

① 女性目線のメリット

女子会なら、女の子だから行きやすい。

社会人の女性を呼んで話を聞ける！

② 男性側のメリット

女性の心理を知ることができる。

将来来るべきときに備えて。

【九班】

3つのセクション

① 笑いセクション（オススメをプレゼンしたりする）

→アイデアの出し合い、コミュカ・表現力・ディスカッション能力の向上。

② レジャーを楽しむ（ディズニーランドを事前に調べて楽しむなど！）

→計画力、どうやったら効率的にいけるか、団体でどうやったらいけるか、バラバラにしないで行動できるか。

③ 既存セクションは何かやり遂げるものが少ない（みんなで何かをやりとげよう！）

→広報、インタビュー、活動の報告をセクションで行う。計画力・準備力の向上

【十班】

① 普段の院生の生活と違うくくりで。

→音楽セクション（クラシック、感性の共有）ブルースバー、ライブハウス、ミスチルライブ、楽器でできる人とのセッション

→森林浴にあってマイナスイオンを浴びよう。

② その他の活動

企業を立ち上げるところにいて話を聞く、ビール工場、化粧品工場

ボランティアセクション→窓口にもなってみる

募金ボランティア、子供・老人と触れ合うようなボランティア

～定例ミーティング後の親交企画～

1) ボウリング大会

荻窪のボウリング場で、ボウリング大会を行った。

スコア上位の人には景品を進呈。

M1、M2ともに仲良く交流を行った。

2) 懇親会

ボウリングの後は、近くの居酒屋で多くの参加者たちが懇親会に参加。

様々な大学院や分野の方とたくさん交流を行っていた。